

広島・平和と日本文化の研修旅行

能代市立能代第一中学校 2年 沼口 直美

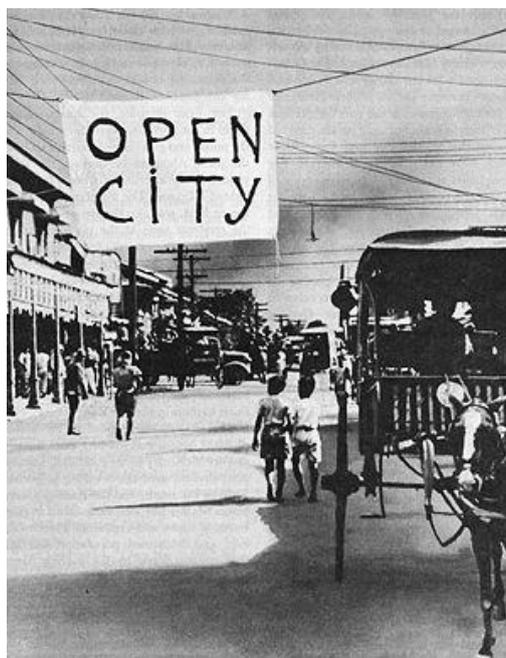
今回、2泊3日で広島に行かせてもらいました。広島では、平和記念館や宮島に行きました。呉にある日本語学習会やいろいろな所にも行きましたが、今回は平和記念館、原爆ドームと宮島に行つての感想を發表したいと思います。

まず始めに、私が生まれ育つたフィリピンは「戦争」という言葉は日常生活には出てきません。人々はみんなどんなに生活が苦しく、貧しくても笑顔が絶えません。自分がフィリピンにいた9年間、祖父母は「戦争」について話したことはなかったです。聞こうとすると「そんなのあなたは知らなくて良い。ただこれだけは頭に入れておきなさい。戦争は絶対にあってはいけない。」としか祖母は言いませんでした。

広島に行くことになり、初めて、自分の国フィリピンについて調べようと思いました。

フィリピンと日本の間に戦争が起こつたというのは聞いたことがあったのでそれについて調べました。フィリピンのDavao島、Baguio島などに爆弾が落とされたということが分かりました。その他にも、アメリカやスペインなどの戦いもあったということも分かりました。自分が思つていた以上フィリピンはけっして前から平和だった訳ではありませんでした。戦争が多い国でした。辛い過去があつた国だからこそフィリピンは今、必死で国を明るくし、「戦争」という言葉を出さないようにしているのではないかと私は思いました。そこで私はなぜ、祖父母が話したがらなかつたか予想がつかしました。それは、自分達はとても辛い戦争を知っているから、見ていたから、あの辛い過去を思い出したくなかつたのではないかと・・・こういうことを広島に行く前に知り、平和記念資料館を見学させてもらえるのをとても楽しみにしていました。

平和記念資料館を見て、私は日本に来て初めて、「日本にはこんなに辛い過去があつたんだなあ」と思いました。広島に原爆が落とされたことと、原爆放射線による人体への影響もあるというのは教科書に載つていて、知つていたのですが、深く考えたことはなかったです。私は平和記念資料館で資料や原爆が落とされた時の、被害にあつた人のボロボロになつた衣類、焼けた髪の毛、高温やけどをした子供の写真など、原爆が落とされたときの様子を表現しているものをみて、初めて深く考え始めました。自分の頭の中でも様子を浮かべながら、記念館を回りました。「とても辛かっただろうなあ」と思いました。「もしも自分があの場にいたら、私は何をしていたのか、生き残つていたとしたら、どのようにして心に負つた大きな傷と立ち向かつて生きていたのかなあ」と



1941年12月26日、日本軍侵攻前にオープンシティ(無防備都市)を宣言したマニラ。後に戦闘が起き、10万人の市民が犠牲となつた。(ウィキペディアより)

私は考えました。そもそも自分は、家族がみんな亡くなり、一人ぼっちになっていたら、生き続けようと思っただろうか……。平和記念資料館にあった実物を見てそのときの苦しきや悲しみが伝わってきて、私はすごく感情的でした。平和記念資料館を出て少し歩いて、原爆ドームに着きました。私は写真でしか原爆ドームを見たことがなかったので、初めて原爆ドームを見てとても感動しました。すごく印象に残る建物で、1945年8月6日午前8時15分にあった広島を語っているように見えました。たった一つの原爆で綺麗な広島の町を壊し、人々の心に今も残る大きな傷をつけた……。二度とこういうことは絶対にあってはならないと思いました。

私は平和記念資料館で大きなショックを受け、祖父母にもこんな辛い過去があったのではないかと思い、気になり、電話をかけることにしました。すると今まで戦争について話したことがなかった祖母が話してくれました。

祖母は日本人がフィリピンに攻めてきたときは生まれていませんでしたが、自分の母親そして、姉がとても嫌な思いをしたと話をしてくれました。祖父も同じく、自分の兄弟を戦争で亡くしていたので、戦争について話をしたくなかったと話していました。祖父母は日本人への悪い印象がありました。祖父母は私が日本に来ることをとても心配していたそうです。初めて分かった祖父母の過去……。聞いていて私は心が折れました。

広島を訪れたことで私は「戦争」はあってはならないと心から強く思いました。そして、広島を訪れたことで自分の国フィリピン、自分の第二の国日本の戦争についてもっと詳しく知りたいと思いました。



原爆ドーム



被爆再現人形「生死をさまよう」 原爆の強烈な熱線のため大火傷を負い、爆風ではがされた皮膚がだらりと垂れ下がっています。（広島平和記念資料館から）

平和な日本が当たり前だと思っている人も多いのではないのでしょうか？戦争が分からない私達のような若者は、ただ口で「怖い」と言っているだけでも本当の恐さを分かっていないと思います。こういう風な体験をし、戦争は建物だけでなく、家族や人々を壊す。そして、なによりも大きな傷を心にいつまでも残すということを感じられるようになり、平和な社会を築ければなあと思います。

原爆ドームの前にあるボート乗り場から宮島に行きました。私は宮島を知っていて、ずっと行ってみたいと思っていました。国宝でもある宮島に行くことができ、とてもうれしく思います。厳島神社はとても綺麗で、すごく感動しま

した。私は海が多いところで生まれ育ったので海が大好きです。厳島神社から香る海の匂いは初めて来たにもかかわらず、どこかで懐かしさを感じました。厳島神社と言えばまず、一番先に思い浮かぶのは、海の中にたっている鳥居ではないでしょうか？はじめてみた鳥居はとても綺麗でした。平安時代今から約1100年前に造られた木造の建物が今も残るということは、とても素晴らしいと思いました。

日本の建物は落ち着いた色をしているものが多いのですが厳島神社が赤かったのはとても印象的でした。日本の厳島神社を将来いつまでも綺麗なまま残せればなあーと願っています。

私は日本に来て7年がたちましたが、今回の広島の旅はこの7年間で自分の第二の国日本について学べて、興味をもてた2泊3日となりました。

平和記念館、原爆ドームでは、戦争の恐さを知り、平和の大切さを学ぶことが出来ました。

宮島、厳島神社では、昔の建物の素晴らしさが分かりました。とても楽しく、日本について学べた旅行でした。



厳島神社本殿